新らしき嗜好に
最も適する……
皆様の爲めに
『食べる人の心になりて』
理想的お食事の出來る
高級なる
パン洋生菓子
珍味ある
商標
㊎遠藤のパン
平驛前（電話七四六番）

貸家案内

白銀町	八、〇〇〇	勤人向
同	二六、〇〇〇	商人向
同	四〇、〇〇〇	同
同	一五、〇〇〇	商人向
仲間町	五、〇〇〇	勤人向
同	四、五〇〇	同
同	八、〇〇〇	商人向
柳町	八、〇〇〇	勤人向
同	六、五〇〇	同
同	五、五〇〇	同
同	五、五〇〇	同
同	五、〇〇〇	同
同	五、〇〇〇	同
同	六、五〇〇	同
鷹匠町	七、〇〇〇	同
二ノ丸	八、五〇〇	同
大町二階	六、〇〇〇	同
内郷村小島	八、〇〇〇	同

加藤營業所
白銀（電話三二〇番）

大廉賣
京都齊
ヒナ人形
小道具一式
玩具行商人
數名募集
いづや
二丁目（電六四九）

胃腸　內科専門　十二指腸虫病
梅毒　皮膚病　淋病　婦人病　専門
平南町　松村病院　電話一〇七

平町田町（横內醫院跡）
佐川齒科醫院
院長　齒科醫學士　佐川渉
（電七五九）

ユラノスケ瓶詰
花見大賣出し
空瓶交換のレッテルなしに
四合瓶詰　一本　四十三錢
二合瓶詰　一本　二十二錢
大口の御注文は成る可く前日迄に御申込み下さい
平町久保町　永山酒造店小賣部
平町四丁目　同　出張販賣店
電話二〇七番

磐城セメント會社特約店
㊂釜屋商店
磐城平町五丁目　電話九番　一三九番
▽良品廉賣ゝ勝る商略なし△
▽確實敏捷は釜屋の生命なり△

御進物には
ヤマフルの商品券が一番
醬油味噌
たひら正宗
鰹節　食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部　一〇番）（釀造工場　二七番）

磐城共濟病院
平町（電話六四一番）
■內科小兒科
院長　醫學博士　難波睦
內科部長　粟野省三
■外科・皮膚泌尿科
外科部長　木村淳
■產科婦人科
產婦人科部長　五十嵐雄二
■藥局
藥劑士　吉本孝平
病院主事　賀澤忠治

花見のお供に
松本のパン

ウズマキ……五錢
バンズ……五錢
ミツワ……五錢
プラム……五錢
レモン……五錢
松本パン……五錢
フイツシユ……五錢
ジヤムサン
ドウ井ツチ……五錢
黒パン……五錢
食パン一斤　十六錢
たいしい

ヤマトモツ
平町四丁目　電話一二四番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

定價　一部金貳錢　一ヶ月卅錢　郵稅五厘
廣告料　五號十二字詰一行　五十錢
休刊　日曜大祭日ノ翌日
日刊
常磐毎日新聞
四月十八日夕刊
福島縣石城郡平町長橋町三五　發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
發行兼編輯人　印刷人　川崎文治
本社ト同番地　印刷所　常磐毎日印刷所（電話六三〇番）

堅牢優美　人造大理石
用途（玄關、應接間、飾窓等のコシ板及び台所、便所等のユカに用ゐて堅牢優美……
色彩形狀は……
水戶寒水石、カモ更沙、ミノ更沙、木目等自然石其儘に自由自在
御一報次第參上御相談に應じ候
平町南町裡火の見下
湧井兼作
平町四丁目
鈴木勇作

生後七ヶ月の男兒
里子に預け度し
姓名在社

「石版印刷物は
電話七五七番」
平驛前　マルヤマ印刷所

人の花見も他所に 汗だくのお巡さん

花見の出來事が 一日平均廿件餘に上る

滿開になつた平町松ヶ岡公園、新川堤の櫻は二三日來ドンヨリとした花曇で如何にも花見時らしい感じをみせ、人出も素晴らしい數に達してゐる、

平署で

査まで召集して雜踏取り締をした程だが迷子、泥醉檢束、傷害、遺失物で警察の手數をかけるのは一日平均二十件餘に上つてゐる、猪狩平署長は『傷害泥醉檢束等は花見で酒の上であることであるが

一家が

花にうかれてゐる留守に窃盜に遭つたりすることも多く警察では花に浮れて騒ぐ方を取り締つたりそれと反對に盜難事件等のないやうに警戒したりせねばならない、此外家出人等も多くあり風紀上の問題等も續發して來るので警察では

巡査が

何人ゐても取り締が出來ない程の忙しさである、一般では兎角浮れたくなる花見時だけにそれ〴〵注意して貰ひたい』と語つてゐたが家出人等も三四件づゝあり不良少年少女の跋扈其他風紀上の紊亂等を取り締つてゐる平署は花見酒に醉つて歩く姿を見乍ら汗だくの体である

霧笛信號 寄附

經營難の爲め

本縣鹽谷岬燈臺霧笛信號器は大正十五年八月本縣水產會が工費四千圓を投じて設置したものでその成績すこぶる良好なため當業者に歡迎されてゐるが維持費一ケ年六百餘圓を要し水產會の財政をもつてしては經營難のため縣の力を借りしばく主務省にこれが寄附採納方を請願してゐたが今日に至るも實現の運びに至らないので來る五月五日宮城縣氣仙沼で開かれる東北六縣水產懇談會に本縣よりこれを提案陳情の決議を求むることとなつた

來日曜は 桃の節句で

松ヶ岡公園や 新川端の賑ひ

平町の櫻は昨今漸く見頃に入り二十二日の日曜頃はその絶頂に達する事と豫想されてゐるが當日は恰も舊曆桃の節句に相當するので天候にして支障なくんば松ヶ岡公園や新川端は花見る人で埋まるの賑ひを呈するであらうと觀られてゐる

一口氏の葬送

十五日逝去した磐城銀行貸付係二口武義氏の葬儀は十七日午後三時平町長橋町の自宅出棺明賢寺において佛式により行はれたが安島元代議士その他各銀行關係者多數會葬磐銀專務取締役白井一郎氏等の吊詞朗讀があつた

平署管内 聯合 消防檢閲

廿日平町で

平警察署管内四町十八ケ村の消防組聯合檢閲は廿日午前九時から平町八幡小路の舊磐中グラウンドにおいて行はれる筈

蒟蒻栽培高

稀に見る成績

石城郡入遠野村の蒟蒻栽培は逐年順調なる發達を示して昨年度における生產額は二千五十貫價格三千五百五十圓に達して頗る良好なる成績を示してゐるが地味より見れば郡内稀に見る蒟蒻栽培の適當地にて以上の增收も決して難事にあらずその將來は極めて有望なるものであらうと

平局が意氣込む 健康相談所の設置

もう一息で二萬口に

平郵便局における昭和二年度の簡易保險募集高口數は三千五百四十八口にて前年度の三千五百六十七口に比すれば十九口の減を示した事になるがこれは元年度と異なり年賀郵便及縣會衆議院議員選擧等の局員總出動の大仕事があつた結果その前後においてその充分なる勸誘の行はれなかつた事に基因し月別の成績に徴し

右事情を

有せる時機を除けば頗る良好なるものあり二千七百口の責任割當口數を標準とすれば大成功で田村局長もホク〳〵してゐるが現在既に一萬四千口の保險契約高を管内に持つてゐるから尚一層の努力を拂つて二萬口に達せしめ

お節句に鹿の子ずし

これは烏賊で作ります、まず烏賊の足や、腸を除き去りよく水洗ひして皮をむき胴一枚に切り開いて縦横に一分位の庖丁目を入れます切り離してはいけません、さうしたらぐら〳〵と煮立つてゐる湯の中に投じざつとゆでます、それを味淋醤油煮出しで甘煮より淡味の加減に煮上げます、この時長く煮ると烏賊が硬くなつてしまひますからざつと煮上げる事が大切であります。かうして煮た烏賊をよく汁氣をきつて切り目の方を下にして布巾の上にひろげ、烏賊の上にすしめつを程よくのせ、イカでくるりとまきます。出來上りましたら適宜の大きさに小口からきります

健康相談所を當町に設置したいと意氣込んでゐた 刑事と稱し

口八飲男横行

平署犯人嚴探

花時となつて平町南町料理店飲食店等へ刑事または警察官と詐稱して無錢飲食をなすものがあるといふので平署で犯人嚴探中のところ本日午前二時ごろ同町飲食店第五新橋屋方へ二十五六歳位の商人風の男が平署の刑事と稱し上り込み家人を脅迫したとの届け出でに平署では嚴探中

各社合同して 協調機關 創設

昨日顔合せを

石城郡内の各炭礦では毎月各會社代表が集合し操業上諸般の協議打合せをなし來つたが今回更にその範圍を擴張し健康保險及勞務關係の協調を圖る事となりその第一回合同協議會を昨十七日午前十時から平町住吉屋本店において開催した左記各社代表出席種々協議を遂げた

（健康保險及勞務關係）磐城、入山、福島、古河、三井、大倉、無煙大日本各炭礦（健康保險關係）磐城セメント、日立

雛祭りの沿革 （一）

祭りの濫觴は、明確な文献が殘存しないので詳でありません

＝その濫觴＝

一般に行はれてゐる説としては敏達天皇の二年正月、侍從雛の像を勸め奉ると云ふ『先代舊事記』の説に基いて、同時代より存在するものと云ひます、尤も記錄の上に、雛の名の見える最初のものは『齋宮女御集』であつて、同集には

うちにおはせし時、ひいなあそびに神の御もとにまうづる女におとこまであひて物いひかはすその

かみはさしも思はでこしかども、思ふことこそとになりぬれ

女のかへし

神代よりおもふ事だにある物を、あたら思ひにいかでなるらん

おなじひな社の前の河に、紅葉散る處にて

風さへや神のあたりを拂ふらん、はやきせゞにも散るもみぢばを

とあり、之等が直に雛の起源とは斷定出來ぬまでも、當時雛の存在した事だけは認められます

＝雛祭り起原＝

雛の語源は少彦名命の略とも云ひ、或ひは雛は小さきものゝ意であるとも云ひます、畢竟當時の雛遊びは今日の如く形式的に發達した雛祭りと異り單なるまゝごとに類して、兒女等の家庭に於ける恒の遊戯であつたものに外なりません、その一例として、伊勢地方に女兒の遊戯としても小米雛と稱する小さい男女の人形を作り、それに宜岐と呼ぶ衣類を纏はせ、屋臺の上に据ゑて遊んだと云ふ事が傳へられてゐるのは、雛遊びがまごとであつたと云ふ事を立證するものであります『源氏物語』末摘花に

例のもろとにひいな遊びし給ふ。

その他『榮花物語』『枕草紙』『蜻蛉日記』等平安記の物語日記類に散見する雛遊びは、悉くそれ等子女の遊戯を描寫したものであります、そして當初の雛遊びは必ずしも女子の專有ではなくて、男兒もまた弄んだ事は、『御產部類記』の『天曆東宮御殿祭』雛の料によつて知る事を得ます

＝定期の初め＝

悉うして雛遊びは上巳の節句に限らず、常の遊戯として行はれて居ましたがまた別に三月の上巳の日には罪穢を贖ふ爲ゝ、出す物の一種で形代又は人形と云ふものを川へ流し捨てゝ、身滌の祓をする事が太古より行はれてゐて『源氏物語り』の東屋の卷に、源氏が須磨へ左遷の時三月の朔日巳の日に浦邊へ出て、陰陽師を召して祓させ給ひ、船にことゞ〳〵しき人形を乘せて流させ給ひしと見えてゐますから、平安朝には既に上巳の祓が普及されてゐた事が分明されますその上巳の祓が雛遊びと混同され形代が雛に轉化して上巳の雛祭が決定されたのは天正以後と傳へられてゐます

（つゞく）